

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102962		
法人名	有限会社 徳藤		
事業所名	グループホーム マイ・ライフ		
所在地	岐阜市下西郷4-80-4		
自己評価作成日	平成22年10月19日	評価結果市町村受理日	平成23年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102962&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲は畑や田んぼなどの自然に囲まれ、天気の良い日には散歩や外気浴といった自然の空気に触れる機会がとて多くのんびりと生活することができます。地域の方なども野菜を持ってきてくださったりと交流の場が確保できています。またいつでもご家族が会いに来れる雰囲気作りを大切にしています。
食事には特に気を使っており、季節に合わせた野菜・魚等旬の物が提供できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者の生活・人生はもちろんのこと、その家族関係も大切にしていきたいと考えており、職員は優しさ・笑顔・ユーモアをモットーに日々のケアに取り組んでいる。入居前の相談から、できる限り不安が軽減するように、本人や家族の希望の汲み取りに努めている。自然環境に恵まれた環境で、天候の良い時間帯を見計らって散歩に出かけており、近隣住民とも顔見知りの関係ができてきている。また、順番にドライブに出かけ、道の駅で生花を買い求め、居間に飾ったり、家族も参加の花見にも出かけていたりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に施設理念・ケア理念を掲げ、常にスタッフが確認できる環境作りに努めています。 また新スタッフ採用時には必ず理念を説明し理解したうえで働いて頂いています。	利用者の毎日のケア・生活・人生はもちろんのこと、その家族の生活や人生も大切にしていきたいと考え、地域密着型サービスの意義をふまえたうえで、理念に「普通に暮らす大切さ」をあげ、優しさ・笑顔・ユーモアをもって日々のケアを行うことを、職員のケアの姿勢として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には継続して入会しており、月一回の班長会議にも出席し、また月2回の回覧板はご利用者と一緒に回覧しています。事業所自体が地域の一員として日常的に交流しています。	管理者は、地域の班長を引き受け、利用者が職員と共に隣家に回覧板をもって行き、挨拶を交わす等地域の人たちとの交流を図っている。地域の夏祭りの子供御輿が来訪したり、ごみ拾い活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入り、班長を務めています。毎月の会合にも出席しています。グループホームの理解を得るために自治会行事には出来る限り参加するように努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の状況サービスの実際、評価への取り組みなどについて報告や話し合いを行っています。	会議には、毎回4家族が参加する他、自治会役員、民生委員、老人会の人、行政職員がメンバーになっており、3ヶ月に1回開催している。会議では、利用状況、行事の予定や報告、地デジ化や外部評価等タイムリーな課題を取り上げ、救急救命講習会や昼食会を兼ねて行う工夫もある。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催できるように、また、開催日時関係で参加困難な市町村・地域包括支援センター職員にも、日程を調整し、参加が得られるように工夫されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携はこまめに行っています。市町村の窓口で事業所の現状を話し、意見を頂いています。	市町村の窓口には、月に1回は訪問しているが、サービス提供内容と加算に関すること、福祉バスの情報を得る等随時相談し、連絡は取り合っている。市関係者の運営推進会議への出席が少なく、利用者の声を直接聞いてもらう機会が少ない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者、または他利用者に危険が及びそうな事柄以外は玄関の施錠も含め身体拘束を行う事のないように個々のケアに力を入れており、その人らしい生活が送れるように職員全員が心がけています。	利用者の個性を尊重し、現在の利用者の状態をよく把握することに努め、行動の制限や言葉の暴力が起きないように職員間で情報を共有したり、看護職や医師に相談し、身体拘束が起きないようケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所での内部研修も含め、職員が研修に参加する事により、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を得たいと思っています。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に研修に参加できる機会を作り また外部研修にはなかなか参加できないので内部研修を行い、権利擁護についての内容を学ぶ機会作りを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時の際、重要事項等の説明は十分に時間をかけて行っています。緊急の対応等に関してもご家族との話し合いの中で、納得して頂ける結論を常に考えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者家族等から意見・要望を「苦情申し立てについての窓口として」機会を設け、運営に反映させています。	運営推進会議と同日に家族会も開催しており、家族の意見を聞く機会としている。面会時にも直接話しを聞いているが、面会の少ない家族には来訪する機会を作り、直接話を聞くようにしている。意見等は職員会議で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設サービス担当者会議を月に1回(緊急時はその都度)開催し、職員の意見、要望、提案を聞き、共通理解を深めるための話し合いの場を設けています。	月1回の職員会議には代表者も参加し、職員の意見・要望等を出し、話し合っている。広い敷地を活用し利用者と共に畑や花など一緒に作りたいとの提案を実現に向け検討する等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任を持って仕事に取り組む事が出来るように、仕事の分担を決め、各自が向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や立場に応じて研修を受けることができる機会の確保に努め、職員の質が今よりもっと向上できるように計画を立てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学などを行って、ネットワーク作りに努めています。またグループホーム協議会に加入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまで、面談で本人の思いや家族の思いを聴き入れ不安の軽減に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から利用に至るまで、面談で本人の思いや家族の思いを聴き入れ不安の軽減に努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人、家族の事情や要望を元にその時点で何が必要かを見極め、事業所として出来る限りの対応に努めています。必要に応じて他のサービスに移行できるように調整を行うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する利用者と共に個別化ばかりではなく複数の利用者に関わる雰囲気作りを行います。コミュニケーションが不足しているような利用者に対しても職員が間にはいり、利用者同士のコミュニケーション作りにも努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんな些細なことでも連絡をこまめにし、職員と家族の信頼関係や、利用者本人との関わり合いが保てるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたでも気軽に来所して頂けるように、家庭的な雰囲気作りにも努めています。	利用者と馴染みの関係の人が、その人の家に遊びにくるような雰囲気づくりに工夫し、多くの訪問者が訪れるように努めている。野菜を持ってきた近隣者や外食先の店と馴染みになる等、利用者が落ち着ける顔馴染みの環境ができるような関係作りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員全員が把握し、日常生活の中で協力し合い、支えあう関係作りを支援させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者・家族が必要とする情報や、福祉施設、医療関係との連携をとり関係を断ち切ることのないよう、付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で不満や要望等の把握に努め、困難な事情であるときは家族に協力を求め、利用者にとって最善の方法を考えています。	職員は、日々の係わりやケアの中で利用者の思いを把握し、その把握したことを、24時間の時系列でシートに記載している。記載されたことは申し送り等で職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の利用者の言動の中で職員が一人一人の状況を把握できるように努力しています。また本人と家族との信頼関係を築くことができるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のひとりひとりの体調や変化に常に気を配っています。また新たな発見や知り得た情報は職員全員で共有できるように口頭や、連絡ノートを活用しています。特に気をつけることなど職員が周知出来るように朝のミーティングを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、新たな課題や、新たな発見などを話し合っています。個別ケアを主とし、一人一人にあった介護計画を立てることが出来るように努めています。	面会時や電話等で確認した家族の意向、看護師・医師の意見も事前に情報収集して介護計画を作成している。6ヶ月に1回は、提供するサービスの実施状況や目標設定の再確認等のサービス計画会議を開催し見直しを行っている。状況に応じた見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は特に使用していませんが、介護記録も細かく記入できるようにしており、特に変化のあったこと、気がついたことなど口頭での情報の共有に努め、それと同様に連絡ノートを常に活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の気分によってニーズが異なってくることもある為、柔軟に対応できるように多様な支援の方法を備え、臨機応変に対応できるようにしています。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ、地域の方、民生委員やボランティア、警察、消防機関などと協力しながら支援していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医がおり、2週間に1回のペースで訪問診療を行って頂いています。また以前からかかっておられた主治医の先生にも相談やアドバイスを頂くこともあり良好な関係作りができています。緊急時適切に対応ができるように支援しています。	ホーム協力医の往診が月に2回ある。眼科や皮膚科等専門科への受診は、基本的に家族が支援している。利用者は入居前のかかりつけ医からホーム協力医に変更しているが、連絡を取り合い、情報提供を受け、連携がうまくいっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員との関係も良好で情報の共有を密に行い、普段の健康管理や観察の視点も話し合っています。また看護職員が不在の時にはすぐに連絡が取れる体制作りもしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は家族の負担軽減も考慮し、本人に対するケアについての話し合いを行っています。早期に退院ができるように、家族、医療関係者との退院計画を話し合います。足を運び状況、状態確認を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族の意見を確認すると同時にかかりつけ医とも話し合いケアの方向性と意向を把握し、対応方針の共有を図れるようにしている。	医療処置の多い場合は困難であるが、看取りには対応できるとしている。本人や家族の意向は、入居時や対応が必要になった時期に、都度意思確認を行い、医師や看護職との連携を取っている。入退院を繰り返す期間が短くなった場合など、家族や医師等と方針の確認を行い、少しでも希望に添った支援になるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が2年ごとに救命講習を受け、いざという時に対処出来るようにしています。また誤嚥や転倒などといった身近に起こりうることを想定しながら職員同士その都度話し合う事を徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の役割分担を明確にし、利用者が安全に避難できるように自治会などの地域の方と協力ができるよう日頃からの連携をとっています。	利用者の家族や地域の方が参加する運営推進会議で、救急救命法の講習や消防訓練を実施している。また、災害時のホームへの支援協力を依頼する文章を地域に回覧している。3日分の備蓄も用意してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドや性格を尊重し、プライバシー確保の徹底を行っています。時には気さくに話をするなど、楽しくコミュニケーションをとることも忘れない様に心がけています。	利用者が日常生活の中で混乱したとき、職員は、落ち着いてもらうために、その人のプライバシーを尊重しながら、部屋に誘導して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の服を選んでもらったり、食べたい物などを聞き出し出来るだけ希望に沿うように支援しています。例えば天気の良い日には布団を干すか干さないかなども利用者の希望を聞きながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性を見極めたうえでその利用者がその日何をしたいのか聞きながら、出来る限り要望に応えられるような暮らしの支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買い物に行く際は外出用に服の好み季節感が出せるように、また自分で選ぶことができるように声をかけています。口紅を塗ったり、マニキュアをつけたりおしゃれが楽しめる演出も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ることはもちろんのこと、その日の材料で何が出来るのかを話し、知恵を貸してもらったり、また配膳、下膳また、食器洗い等に至るまで一連の動作が出来るように支援しています。今食べたものが何か忘れてしまっても「おいしかった」と喜んでくださいます。	利用者は自分のエプロンを持ち、野菜の下準備や下膳、皿洗い等できる事を担当している。お好み焼きを職員と一緒に作ったりするなど、楽しい雰囲気での食事を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一ヶ月に1回カロリーの計算の継続をしています。また、排せつなどの量や時間等を把握し、出来るだけ多くの水分を摂ることが出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っています。総義歯でも部分でもきちんと外してもらい、週1回の洗浄剤を使った除菌も行っています。うがいが困難な方に対しては液体歯磨きを使用し口の中の粘り気や残渣物がないように気をつけています。		

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間に合わず、服が汚れてしまったりすると周囲の目も気になり、水分を控えてしまう方が見えます。出来るだけ自立を支援しますが、要望やその人の置かれている環境にも気を配っています。	時系列の介護日誌に排泄をチェックし、本人のパターンを把握して声掛けを行っている。また、日常的に、誘導した時の状態により、次の誘導時間を配慮するよう申し送りもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	どういった状態で便秘が起こりやすくなるか、また便秘になってしまったらどのように対処すればよいかなど常に排泄に関わっている職員同士意識しながら個人にあった排便が出来るように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日のひとりひとりの体調や変化に常に気を配っています。また新たな発見や知り得た情報は職員全員で共有できるように口頭や、連絡ノートを活用しています。特に気をつけることなど職員が周知出来るように朝のミーティングを行っています。	日曜日以外は、毎日入浴できるよう用意し、少なくとも2日に1回は入浴できるよう支援している。入浴できないときや汗をひどくかいた場合は、下着の着替えを行う等清潔への支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握することはもちろんですが、日中疲れすぎない様に活動してもらえるように支援しています。適度に昼寝も組み入れゆっくり過ごすことが出来る時間も大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の際のお薬の変化や処方された目的や副作用等職員全員の共通理解に努め、少しでも薬によって変化が見られた場合には主治医との連絡を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に一回は大きな行事を作り(例えば、2月は節分・バレンタインデー等)職員の配置を多くし利用者全員関わられるようなレクを行っています。また誕生会も同じ月にあっても個人個人を大切にしています。大げさに笑いがある様に努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しに行く時には利用者と一緒にいきます。また天気の良い日には気分転換も含め、ドライブに順番に行けるようにしています。また利用者のご家族にも協力してもらい、食事や服などの買い出しに外出が出来るように連絡しています。	外気浴のため、庭の花の水やりや庭の散歩をしている。神社への参拝もしている。近くにある道の駅には頻回に車で出かけ、花を買って部屋に飾ることを楽しみにしている。年に1・2回は公的な福祉バスを借りて、家族と共に日帰り旅行を行っている。	

岐阜県 グループホームマイ・ライフ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が殆ど出来なくても、買い物や、立ち寄ったお店で気に入った物、ほしい物があつた時など選んで頂き、自分で精算が出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを正月、暑中見舞い等書いて頂いています。またご家族の都合もお聞きしながら、利用者に好きな時間にご家族に電話が出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の気候の変化が感じられるように天気の良い日には換気を行ったり、窓を開け光をいれ、季節にあつた花を玄関に植えて一緒に世話をしたりしています。来所者や家族など色々な人が使用する所は毎日掃除し、快適に暮らすことができる支援も行っています。	共用空間は、日当たりがよく、清潔で明るい。ソファに腰掛け、テレビでDVDの昭和の歌謡曲を楽しむことも出来る。また、利用者の癒しの存在になっている小犬がいるが、きちんと躰けられており、衛生管理も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす時間を大切にしていますが、引きこもりにならないように声をかけたり、気の合う方とのコミュニケーションが図れるようにしています。また気の合う利用者同士居室の行き来が出来るような支援も行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人部屋に置いている物が違い、ほとんどは以前住んでいた家の家具であつたり、装飾品であつたりします。物が置いている位置が不便だとの訴えがあつた時などは一緒に部屋の模様替えを行うようにしています。	ベッド・クローゼットはホームで用意している。家族の写真や道の駅で購入した花等が飾つてあり、それぞれが落ち着ける部屋となっている。居室の掃除も自分でできる範囲で行われ、職員が仕上げ、清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色々な場所に張り紙をし、目的が分かるようにしています。また各居室には入口に名前を貼り認識出来るように支援しています。		